

平成 26 年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1472800265	事業の開始年月日	平成12年4月18日
		指定年月日	平成12年3月28日
法人名	医療法人社団 厚仁会		
事業所名	グループホーム おおね		
所在地	(〒 257-0003 ) 神奈川県秦野市南矢名2-12-1		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	9 名
		ユニット数	1 ユニット
自己評価作成日	平成26年8月6日	評価結果 市町村受理日	平成27年3月24日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>ご利用者様のこれまでの生活習慣を尊重し、それぞれが得意としてきたことや行ってきたことを出来るだけ続けて頂けるよう日々の生活の中に取り入れ、穏やかでいつも笑顔で安心して暮らしていける環境を作り出せるよう職員全体で取り組んでいる。</p> <p>天気の良いときは散歩や買い物など出来るだけ屋外に出るようにし、お花見やドライブ、クリスマス会など行い、その季節を感じたり、楽しんだりして頂けるよう努めています。</p>
--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	公益社団法人 かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区本町2丁目10番地 横浜大栄ビル8F		
訪問調査日	平成26年8月22日	評価機関 評価決定日	平成26年10月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p><b>【事業所の概要】</b> この事業所は、1ユニットのグループホームで、介護老人保健施設「ぬくもりの家」の2階に併設されている。小田急線の東海大学前駅から大学への通学路を徒歩5分ほど行った所にある。近くにはスーパーマーケットや駅前から続く商店街があり利便性が高い。隣接して同法人経営の病院があり、廊下を通して行き来できる。</p> <p>ユニット内部は全体に広々として、床は特殊な材料を使って柔らかい感触である。リビングは採光が良く明るく、利用者がゆったりとくつろいだ様子でテレビ観賞をしたり、雑誌を見たり、職員のサポートを受けながら作品作りをするなど思い思いに過ごしている。廊下は車椅子がすれ違えるほどの幅で手すりが完備している。居室は、利用者の希望によっては2人部屋に設定できるほどの面積で、トイレ、空調設備、照明器具、収納設備、カーテン、ベッド、洗面・流し台、ミニテーブルセットの他、電話も常備されている。</p> <p><b>【理念の実践と職員の連携】</b> 理念は「高齢者が地域社会の中で、自立とふれ合いを大切に豊かで明るく健やかに暮らせる」である。5項目の基本方針と併せて玄関やユニット内に掲げている。職員は理念を記載したネームプレートを携帯して常に理念を認識し、利用者が地域の一員として尊厳を保ちながら自分の出来ることを行い、明るく健康で豊かな生活を続けていけるように支援している。訪問時には、数人の利用者と職員がテーブルを囲んで和やかに談笑しながら、布を裁断し寸法を測って雑巾を縫っているのが見受けられた。</p> <p>日勤の職員は、持ち回りでリーダー、調理・買い物係、入浴係の役割を分担し、互いをサポートしながら日々のサービスを実施している。新入職員に対しては、先任職員が業務を丁寧に説明し、手ほどきしている。管理者との信頼関係も厚く、職員同士のチームワークも出来ている。</p>
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホーム おおね
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	高齢者が地域社会の中でふれあいを大切に豊かに明るく健やかに暮らせることを理念とし、事業所内2箇所に掲示しいつでも見ることが出来る。日々の申し送りの中で話し合いを持ち、共有・実践に努めている。	事業所の理念は、開設時に管理者と職員で作成し、5項目の基本方針と共に玄関やリビングなどに掲示している。職員は、毎日の申し送り時に確認して共有を図っている。日頃から理念を念頭に置いて利用者が常に明るく、笑顔で穏やかな生活が送れるように支援に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議や保健福祉フェスティバル、地域の夏祭りやどんと焼きに参加している。日常生活では散歩や買い物など外出時には近所の方と挨拶を交わしたり、なじみの方の家の庭で採れる野菜や果物の収穫をさせて頂いたりしている。	自治会には法人として加入し、地域の夏祭りや商店街のどんと焼き、保健福祉センターフェスティバルなどに参加している。折り紙や紙粘土の作製、日本舞踊や民謡などの地域のボランティアが来訪し利用者を楽しませている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や保健福祉フェスティバルに参加することにより認知症の方への理解や情報の発信を行っている。また、地域の行事に参加したり外出することにより認知症の方に対する理解を地域の方々に発信できている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年6回行い、日々の活動や近況報告、外部評価の結果報告等行い、利用者・ご家族の要望をお聞きし、サービス向上に努めている。また、推進会議に外出や昼食会を取り入れ、ご家族に利用者の普段の様子を見ていただけるようにしている。	運営推進会議は年6回開催している。利用者や家族、地域の代表者、市の高齢介護課・地域包括支援センター職員、事業所職員が出席している。事業所の活動報告や外部評価の結果報告の後、質疑応答を行ったり感染症などの予防について討議するなど双方向的な会議である。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	書面にて毎月の利用者の状況報告をしている。また、運営推進会議や保健福祉フェスティバル等を通して責任者や担当者が日々の様子や活動状況を報告したり問題点を伝えながら意見を聞いて協力体制を築いている。	秦野市の高齢介護課には毎月入居者状況報告などを行っている。また、市が主催する保健福祉センターフェスティバルや研修会に利用者や職員が参加している。県央地区グループホーム協議会に年4～6回参加して他の事業所と情報交換している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内で定期的に行われている勉強会に参加や、介護マニュアルにより身体拘束に該当する具体的な行為を学び、周知している。エレベーター、非常階段は安全のため施錠を行っている。	身体拘束を行わない介護について運営規定や重要事項説明書に記載し契約時に説明している。職員は併設の事業所との合同勉強会や研修会に参加して、拘束しない支援に努めている。エレベーターは日中は開錠し、夜間および階段出入口は安全確保のため施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で定期的に行われている勉強会や研修に参加や、介護マニュアルにより周知している。申し送り等で言葉かけや対応方法について話し合い、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	利用者様のご家族からの相談は管理者が対応している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書等で説明し、ご理解を頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者全員と家族代表に参加して頂き、意見や要望を聞いている。また、利用者や家族からの日常生活での要望や不安な点は都度職員が対応し、対応できない場合は後日管理者が対応する。1階の玄関に意見箱を設置し、法人全体で苦情や相談に対応している。	管理者は、職員には家族の訪問時に要望、意見を聞くように周知し、家族の意向だけでなく利用者についての要望などを聞き取っている。利用者の様子や季節の行事、事業所の防災訓練などが掲載された機関紙「紙ふうせん」を年4回発行し、家族とのコミュニケーションを図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回行われているカンファレンスにて管理者や法人担当者に職員の意見や要望を聞く機会を作り、行事や介護方針などの提案があり、運営に反映させている。また、日々の申し送りで出た意見や要望は必要時管理者より代表者に報告している。	管理者は、毎月のカンファレンスや朝のミーティングで職員の要望や意見を聞く機会を作っている。外部評価の実施に当たって、自己評価作成の際にも全職員の意見を聞いている。備品の購入や安全確保のための居室センサーの設置など、職員の要望や提案を取り入れて実施している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格給や能力給を設け、職員の資格取得やケアの向上に努めている。3～4日の希望給を取り入れたり、労働時間内に業務が終えるように業務内容を調整したり職員が働きやすい環境を整えるよう努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの希望や力量に応じて、法人内外の研修や他グループホームとの相互研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	近隣事業所との協議会を持ち、情報交換や相互研修としてお互いの事業所を訪問して職員の交流や質の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設内の見学や管理者との面談を行い、疑問や不安、要望等を聞く機会を設けている。必要に応じてお茶や食事など体験入所を勧め、ホームの雰囲気を知って頂く機会を作っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の段階により本人や家族が不安に思っていることや訴えに対し納得して頂けるまで何度でも聞き取り、サービスに反映出来るよう対話を通して信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族の要望を把握し、その時の状況に応じて他サービスの利用を含めた対応が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の食事の支度や買い物、洗濯物の片付けなど一緒に行っている。また、梅干しやラッキョウ、白菜漬けや季節の行事等職員と一緒にいることを通して生活を共にしている存在であることを感じていただけるよう努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や手紙にて本人の生活状況をご家族にお伝えし、運営推進会議に参加して頂いている。通院や外出・外泊等ご家族と共に本人を支援して頂ける様協力をお願いしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所時や手紙にて本人の生活状況をご家族にお伝えし、運営推進会議に参加して頂いている。通院や外出・外泊等ご家族と共に本人を支援して頂ける様協力をお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	キーパーソンに確認した上で面会時に現在の本人の状況を説明し、ゆっくりとお話が出来るよう居室や食堂などの環境を整える。友人の面会や手紙などはご家族にお知らせし、関係が長く保たれるよう支援している。家族や親族など希望者には事業所の機関紙を年4回送付している。	近隣のスーパーマーケットに度々買い物に出かけ、店員と言葉を交わすなど馴染みの関係になっている。友人・知人が来訪した場合は、湯茶を提供し居室やリビングで交流してもらっている。家族や親戚への年賀状、手紙などの投函の手助けもしている。居室に電話を備えて家族や知人と話している利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が関わりやすいようにレクリエーション時や食事時など場面に応じて席を移動したり、必要時職員が間に入り利用者間の交流を促したり、互いの関係を深め、より良い生活が送れるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動された方の施設に職員が面会に行ったり、ご家族から退所後の様子をお聞きしたり、相談に応じたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人がやりたいこと、してほしいことをその都度聞きながら出来る限り対応するよう努めている。意思の疎通が困難な方には家族からの意見や普段の行動を観察し、意向を汲み取るよう職員間で検討し、支援している。	職員は日頃の何気ない会話や表情、仕草から利用者の気持ちやしたいことを把握している。職員は、本人が母親や主婦であった頃の役割や気持ちを大切にし、縫い物や漬物などを頼んだり教えを請いながら共に家事などを行っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご家族や本人から今までの生活歴などをお聞きし、職員間で情報を共有している。また、面会など日々の会話の中から情報収集を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや食事摂取状況、各自の一日の過ごし方などを個人記録や特記事項表に記載し、利用者一人ひとりの現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意志やご家族の要望を尊重し、医師や職員ら関係者と現状の把握と今後の方向性を話し合い、介護計画に反映させている。	職員は介護計画の目的やサービス内容を認識し、実施した内容を記録している。入居時は、初回アセスメントをもとに計画を作成し3ヶ月後に見直している。以後6ヶ月または1年ごと、状態の変化があればその都度見直しをしている。必要に応じて医師・看護師の意見を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録にて水分・食事摂取状況、体重・血圧、与薬状況、日々の状態等を記入し、情報共有している。また、特記事項表にて日々の様子や状態を分かりやすくし、介護計画の見直しに活かしている。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	OTやデイケア、管理栄養士等法人内のスタッフを利用してサービスに対する助言を得たり、幅広い支援を出来るよう努めている。また、利用者の個別の要望に応えられるよう対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の催し物や行事に参加したり、日本舞踊や太鼓のボランティアの方に踊りや演奏を披露して頂いたりしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月1回法人内の病院にて内科受診がある。必要時、他科受診行えるようご家族の協力を得ながら支援している。	隣接する同一法人の病院の内科医が月1回、利用者全員の診療を行っている。他の科目の診療は原則として家族対応で、受診情報は家族から聞き取って記録している。緊急時には建物内の介護老人保健施設の看護師に相談して処置や受診の指示を受けている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ご本人の日々の状態を観察し、異常時には法人内の病院や老健の看護師に相談し、受診や処置が受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合は施設での情報は管理者が必要な情報を提供する。入院後は家族や病院関係者と情報交換しながら本人の現状を把握し、早期の退院に向けて事業所内で対応ができるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、事業所では看取りは行っていない事や、重度化した際の対応について、退去の時期や目安について、入居契約時より説明行っている。重度化した際、医師や管理者からご家族に説明を行い、ご本人の状況に合う環境を提案している。	事業所に隣接して同法人の医療機関があるので利用者の急変時には迅速に対応できる。利用者が重度化した場合は医師、管理者、家族が話し合って本人の状況により病院で対応したり他の施設を紹介するなどしている。家族・本人の希望があれば可能な限り事業所内で支援している。	利用者の重度化に備えて医療関係者による職員研修を行い、看取りや夜間の急変時対応について基本的な知識や心構えを周知徹底することを期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルがあり、事業所内に掲示し、周知している。法人内で定期的に勉強会があり、職員が参加している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内で年2回の避難訓練と消防訓練を行い、避難経路の確認や災害時の対応の訓練を行っている。今年はグループホームの台所が火元として訓練を行っている。	防災訓練は同建物内の介護老人保健施設と合同で年2回実施し事業所として夜間想定訓練も行っている。事業所前に広い駐車場と公園があり一時避難場所となっている。災害時は職員の役割分担が決まっている。事業所の隣に法人合同の備蓄倉庫があり食料や水など3日間の備蓄がある。停電に備えて非常電源装置がある。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄や入浴の介助などご本人が恥ずかしいと感じやすいような場面では周りの方に気付かれないような言葉掛けや介助を行い、ご本人のプライバシーと羞恥心に配慮して対応するように心掛けている。	プライバシー保護について運営規定や契約書に記載し職員研修も行っている。職員の言葉使いに不適切なことがあればその都度または申し送りの際に注意を喚起し周知を図っている。事業所で利用者ごとの生活状況や介護方法などを話し合うときは個人名を出さないよう配慮している。個人情報の含まれるファイルなどは施錠して保管している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の会話や行動の中から利用者が自分の意思や希望を表現しやすいような環境を作り出すようにしたり、言葉かけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の一日の基本的な流れはあるが、一人ひとりの状態に合わせて本人のやりたいことを職員と話し合いながらできるだけ希望を聞いて過ごして頂けるよう支援している。また、自分の意思を発言出来ない方でも表情や態度などから本人の意思に近づけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類を選ぶ際には季節や気温などを考慮して心地よい服装を選べるよう助言をしたり、用意している。家族と協力して馴染みの美容室に行ってもらったり、化粧品や美容液などその人らしい身だしなみを整えることが出来るよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状態に合わせて柔らかさ、大きさ、刻みなど変えて調理している。料理の下準備や盛りつけ、片づけなど利用者各自が得意とする事を職員と共にお手伝いして頂き、食事時は職員も同じテーブルにつき、若い頃の話や世間話などしながら食事をしている。	食事のメニュー作成と調理、食材購入は毎日持ち回りで職員が担当して手作りの食事を提供している。利用者は調理や下準備、配膳、下膳などを手伝っている。利用者と職員で作ったらっきょう漬けを使ったタルタルソースやうめ漬けなどを提供している。職員は同席して同じものを食べ必要に応じて介助している。行事食は職員の手作りを賞味している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事・水分摂取量、献立やカロリー計算の記録を行っている。利用者の好みや状態に応じて食材の形態を変えたり、補食を提供している。食事制限のある方は制限の範囲内で嗜好に合わせた品を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の歯みがきの声掛け、見守りを行い、必要時に介助を行っている。義歯は夕食後洗浄剤にて殺菌洗浄を行い、歯ブラシは昼食後熱湯消毒し日光乾燥を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者の日々の動きや行動を観察を通して、一人ひとりの排泄のリズムを把握し、トイレの声かけ・誘導・介助を行い、自然にトイレでの排泄を促せるよ支援している。	排泄チェック表でパターンを把握しトイレ誘導をしている。利用者は出来るだけトイレ前まで誘導し、自力排泄を促し自立支援に努めている。退院後の利用者に対して、支援の結果自立排泄へと改善した例もある。夜間に居室で排泄するときなどの安全を確保するため、センサーを備えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の食事の中で野菜や海藻類を多く摂取するよう心掛けており、乳製品を毎日摂るようにしている。散歩や体操などで身体を動かすよう働きかけたり、必要に応じて下剤の調整を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴の曜日は決まっているが、希望する時間や順番を聞きながら対応している。また、必要時・要望時、随時入浴ができる体制がある。	入浴は週3回であるが、希望があれば回数や入浴時間などは柔軟に対応している。入浴を好まない方は、気分転換を図ったり、対応する職員や時間を変えて誘っている。体調によってはシャワー浴や清拭などに変えることもある。脱衣所に冷暖房設備、浴室にリフトが設置されている。季節ごとに菖蒲湯やゆず湯を提供している。原則として同性介助である。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の希望や好みに配慮して快適に過ごして頂けるように室温や光量、音調や寝具調整等を行い、心地よく休めるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬リスト集にて利用者ごとの服薬情報を把握している。処方薬の変更の際は受診ノートや申し送りを通して各自周知するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の興味のある事や得意な事、趣味を生かして楽しめるよう裁縫や編み物など行ったり、台所のお手伝いや洗濯物の片付け等にも参加して頂いている。外食やドライブ、花見等に出掛けた際は希望の所に寄るようにしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の希望をお聞きし、散歩に行ったり、買い物の付き添いを行っている。年中行事として花見や外食などドライブに出掛けたりしている。家族や友人の誘いで外出する事もある。	天候が許す限り近隣散歩や買い物に行っている。敷地内の公園で日光浴や気分転換をする場合もある。歩行困難な方や車椅子の方にも対応している。地域の行事やイベント、季節の花見や外食、ドライブなど遠方への外出も実施している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員が同行し、近所の店まで出掛けて好みのものを買うなどの支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望を聞き、家族や知人に連絡が取れるよう電話をしたり、年賀状や暑中見舞い等、書ける方には書いて頂いている。また、家族や知人から品物等が届いた時はお礼の電話を入れ、近況を話していることもある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に季節の花を飾ったり、外出時や日頃の写真、作品を掲示し皆で見て楽しんだり、家族の来所時に日常の様子が分かるようにしている。廊下や通路は車椅子で通れるように整理している。暖色系の照明を使用し、室温調整を行い心地よく過ごして頂けるよう努めている。	ユニット入口ホールは広く、ゆったりとしたソファが備えてある。リビングは採光が良く明るい。キッチンに生花を飾り、壁には季節の行事に参加した思い出の写真や習字、切り絵などの作品を掲載している。ベランダでは鉢植えに季節の花が咲いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や玄関前にソファを置き、一人の時間を過ごしたり、利用者同士やご家族、知人の方と過ごしたり、それぞれが自由に利用できるような場所を作っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にはご本人が長年利用されていた家具や寝具などを持ち込んで頂いたり、家族の写真や手紙、プレゼント等を室内や机の上や戸棚に入れておき、いつでも見て楽しんで頂けるようにしている。	居室は広く清掃が行き届き、窓内側に障子戸がはめられ落ち着いた雰囲気である。利用者は、家族の写真や思い出の物を持ち込んで住み心地良くしつらえている。居室表示は顔写真入りで押し花の額など好みの作品を掲げ、各自の居室が分かるようになっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーで各居室にトイレ、流し台、空調設置している。トイレや居室に分かりやすいように目印を付けたり、スケジュール表を貼りご自身で判断が出来るようにしています。		



目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム おおね

作成日 平成27年 3月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	2	日常生活において利用者様の行動が一定化しやすい。外部からの刺激が少ない。	行事やレクリエーション、地域との交流を通して生活の活発化を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全体・個人への対応の方法を考える。</li> <li>・地域の行事に参加する。</li> <li>・家族や外部資源も含めた外出などの計画・提案行う。</li> </ul>	12か月
2	35	災害時・非常時の対応についてふあんがある。	災害時・非常時の対応や機器の取り扱いについて職員各自が身につける。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内の地域の防災訓練に参加する。</li> <li>・緊急対応の勉強会や研修を行う。</li> </ul>	12か月
3	13	職員の介護技術や認知症に対する知識や接遇について不安がある。	法人内外の勉強会や研修に参加する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法人内外の勉強会・研修に参加する。</li> <li>・職員の資格取得の推進を行う。</li> </ul>	12か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。